

篠路福移湿原 ～現状報告とご提案～

有坂美紀

RCE北海道道央圏協議会 事務局長

篠路福移湿原（札幌市）

https://www.env.go.jp/nature/important_wetland/index.html

環境省「重要湿地」選定の目的
（一部抜粋）

「日本の重要湿地500」は、保護区の設定や開発案件における保全上の配慮を促す基礎資料として活用され、我が国の重要な湿地の保全を推進する役割を果たしてきた。例えば、北海道においては、「自然環境保全指針」を策定する際、重要湿地であることが重要な要素として公表され、自然環境保全に効力を発揮した事例がある。

また、ラムサール条約の潜在的な候補地を選定する際や、環境アセスメントの基礎資料として活用された事例もある。

生物多様性の観点から重要度の高い湿地

「重要湿地」
トップ



「重要湿地」
選定の方法



「重要湿地」
調査結果一覧



「重要湿地」
関連リンク集



 生物多様性の観点から重要度の高い湿地（略称「重要湿地」）



「重要湿地」 No.065 篠路福移湿原

環境省 > 政策分野・行政活動 > 政策分野一覧 > 自然環境・生物多様性 > 保全上重要な湿地 > 重要湿地トピック > 「重要湿地」の指定地分布 北海道 > 「重要湿地」 No.065 篠路福移湿原



高層湿原，中間湿原，低層湿原



篠路福移湿原は、札幌市北区篠路町福移の原野に存在する約4000年前に形成された石狩湿原の一部で、札幌市内に残った唯一のミズゴケ湿原です。数少ない湿原の中でも特にミズゴケ湿原は、全国的にも貴重な湿原です。

(出典：カラカネイトンボを守る会HP

<https://www7b.biglobe.ne.jp/~karakane/03-2-omonakatudou.html>)

■生物分類群：湿原植生

■選定基準

ヌマガヤ・ミズゴケ群落、ヌマガヤ群落などからなり、動植物の貴重な生息・生育地となっている。ススキ・ササ群落も見られ、高層湿原要素としてはミカヅキグサ、モンセンゴケなどが、中間湿原要素としてホロムイヌゲ、ヤチヤナギ、ノハナショウブなどが生育する。

■選定基準

1：湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・マングローブ林、藻場、サンゴ礁のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している場合

2：希少種、固有種等が生育・生息している場合

出典：https://www.env.go.jp/nature/important_wetland/wetland/w065.html



<カラカネイトンボ>

札幌市レッドリスト:絶滅危惧IA類(CR)

➤ ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種

北海道レッドリスト:希少種

➤ 現在のところ、上位ランクには該当しないが、生息・生育条件の変化によって容易に上位ランクに移行する要素を有するもので、次のいずれかに該当する種または亜種

<カラカネイトンボを守る会による保全活動の経緯>

出典:<https://www7b.biglobe.ne.jp/~karakane/index.html>

2002年 7月:当時の桂市長に「湿原公園」として市で保存するよう要請、

2003年12月:当時の上田市長にも「風致地区として、湿原公園」として保存を要請するも、財政事情を理由に拒否

➤ このような状況の中、湿原は周辺から建設残土や廃棄物による深刻な埋め立てが進み、当初40ヘクタールあった湿原が5ヘクタール以下にまでに減少。

2004年12月:地権者115人の登記簿を調べて「湿原保存活動へのお願い」要請文を発送

2006年までに:5地権者、6区画の土地を賃借することができた

➤ 最終的には自分たちで土地を取得するほか湿原を守る方法は無い、と考へ「ナショナル・トラスト運動」をスタート。

2011年6月14日:深刻な埋め立てから篠路福移湿原を守るため、埋め立て業者に対する訴訟を行う。

2016年:最高裁にて、カラカネイトンボを守る会の敗訴が確定

2023年9月30日現在:寄付や助成により運動を続けてきた結果、管理地は9,750㎡に拡大。



出典：登記所備付地図データ（法務省）

（G空間情報センターから2025年4月にダウンロード）



黄緑の部分はトラスト活動によって購入した土地だが、業者により埋め立てられてしまっている。

（出典『第34回ナショナル・トラスト全国大会報告書』

[chrome-extension://efaidnbmninnbpcapjpcgclefindmkaj/https://www.ntrust.or.jp/action/assembly2016/NT2016report.pdf](https://www.ntrust.or.jp/action/assembly2016/NT2016report.pdf)）



国土地理院撮影の空中写真
(1985年9月11日撮影)
残土受け入れ前の様子。
95年頃、高校生による
カラカネイトンボの調査スタート



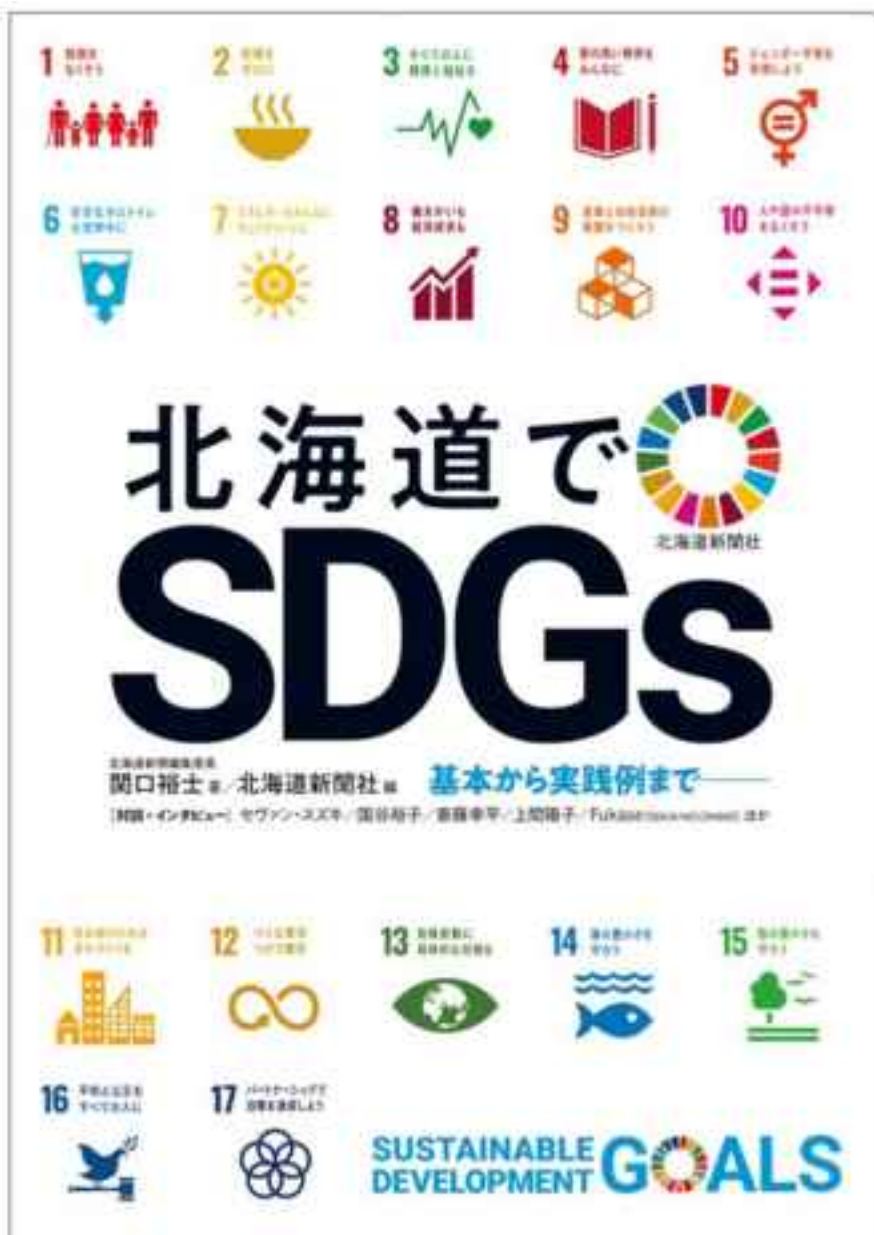
国土地理院撮影の空中写真
(2008年5月16日)
2001年頃、南側から埋立が始まる。
2008年、日本水大賞環境大臣賞受賞後、
市は業者に対して埋立中止を指導



国土地理院撮影の空中写真
(2020年9月29日)
約20haあった湿地が、5ha以下に。
2016年の最高裁敗訴後、急速に埋
立が進む。

出典(航空写真):国土地理院ウェブサイト

https://service.gsi.go.jp/map-photos/app/map?search=photo&id=undefined&search_date_from=0000&search_date_to=9999&color_type_ids=1%2C2&scale_from=0&scale_to=99999999&lon_min=141.38775617818945&lon_max=141.4772424591358&lat_min=43.14717479876481&lat_max=43.167027549808125#14/43.159296265999984/141.425337382



『北海道でSDGs』

著者:関口裕士(北海道新聞編集委員)、北海道新聞社編

出版社:北海道新聞社

発売日 2022年7月23日

「狭まる湿地 トンボを守れ
開発で99%消失 保全策は進まず」





生物多様性の保全

- [イベント・募集のお知らせ](#)
- [生物多様性さっぽろビジョン（平成25年3月）](#)
- [知っていますか？生物多様性のこと](#)
- [生物多様性と事業活動](#)
- [生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク](#)
- [生物多様性シンボルマーク・キャッチコピー](#)
- [カッコー先生の情報広場](#)
- [パンフレット](#)
- [リンク](#)
- [カッコー先生の生物多様性Q&A講座](#)
- [生物多様性さっぽろ絵本コンテスト](#)



更新日：2024年4月4日

生物多様性さっぽろビジョン

札幌市では、生物多様性の保全を推進するため、生物多様性に関する取組の方向性を示す長期的な指針として、「[生物多様性さっぽろビジョン（平成25年3月）](#)」を策定し、様々な取組を実施してまいりました。

平成25年（2013年）3月の策定から10年が経過し、生物多様性を取り巻く状況が変化したことから、この度、ビジョンの改定を行いました。

本ビジョンでは、「[ネイチャーポジティブ](#)」という新たな視点を踏まえ、本市の施策を進めるにあたっての基本方針を新たに設定しました。また、基本方針に基づく2050年までの目標を設定し、この達成に向けて2030年までに重点的・優先的に取組む施策や目標を定めています。

- [PDF 生物多様性さっぽろビジョン（令和6年3月）（PDF：6,064KB）](#)
- [PDF 生物多様性さっぽろビジョン【概要版】（令和6年3月）（PDF：6,691KB）](#)



[ページの先頭へ戻る](#)

生物多様性さっぽろビジョン 令和6年(2024年)3月

湿地

明治期以前、開発前の札幌市北東部には、広範囲に石狩低地特有の湿地が広がっていました。現在は、畑などに開発されず、わずかに残された篠路福移湿原や、モエレ沼、中沼など石狩川の河道跡や周辺の低地の一部において、過去には広く分布したであろうモウセンゴケやミズゴケなどの植物が生育する泥炭地植生が見られます。このような自然環境や周囲の住宅街に残された小さな水辺は、カラカネイトトンボなどの希少な昆虫の生息地になっていますが、開発などの影響を受けてその面積は減少しています。



▲篠路福移湿原

(2) 主な保全すべき生態系

防風林、草地、湿地



▲北区屯田町の防風林



▲篠路福移湿原

P47

P4

篠路福移湿原 2025年7月





札幌市所有の場所
も土砂運搬用の道
路として埋め立てら
れている？

<提案>

市内の高校生や市民が30年、保全活動を実施し、環境省、札幌市ともに生物多様性に重要な場所であると認識していたにも関わらず、篠路福移湿原がほぼ消失してしまった事実を受け止め、今後、このようなことが再び起きることのないよう、行政、市民、事業者、活動団体等が一体となり、生命を大切にし、未来にその恩恵を引き継ぐため、具体的な対策を検討する場の設置を提案します。

机上配布として、当日は以下の資料を配布

- 2021年7月19日付け 北海道新聞（朝刊、4ページ）
「狭まる湿地 トンボを守れ」
- 2025年7月20日付け北海道新聞（朝刊、14ページ）
「埋まる湿原 トンボ消えた」